

地歴・公民 シラバス（平成28年度）

「政治・経済」	単位数	2 単位	学科	普通科	学年・学級	3 年（1～6）組
---------	-----	------	----	-----	-------	-----------

1 学習の到達目標

学習の到達目標	<p>1. 民主主義の本質について理解を深めさせるとともに、理論的・体系的に理解させる。</p> <p>2. 現代の政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させる。</p> <p>3. 1・2の理解を踏まえて現代の諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民としての必要な能力と態度を育成していく。</p>
使用教科書・副教材等	<p>教科書：第一学習社『政治・経済』</p> <p>副教材：『最新政治・経済資料 2016』（第一学習社）</p>

評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<p>・現代の政治、経済、国際関係に対して関心を高めていくとともに、意欲的に課題を追究し、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進を図るため客観的に考察しようとしている。</p>	<p>・現代の政治、経済、国際関係に関する諸課題を発見し、その本質や特質、さらには望ましい解決の在り方について広い視野に立ち、多面的・多角的に考察しているとともに、様々な立場を踏まえて公正な判断をしている。</p>	<p>・現代の政治、経済、国際関係に関する諸資料を様々なメディアにより収集し、有用な情報を主体的に選択・活用するとともに、それを追究していく過程や結果について様々な方法を駆使して適切に表現していくことができる。</p>	<p>・現代の政治、経済、国際関係について基本的な事柄、本質や特質などを理論的・体系的に理解し、基本的な概念や理論を知識として身に付けている。</p>

2 学習指導計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	月	学習内容 (教科書の構成)	学習のねらい	評価の観点				考查範囲	備考(学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習時間・特別活動等との関連等)
				関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解		
第1学期	4 5	<p>第1編 現代の政治 第1章民主政治の基本原則と日本国憲法</p> <p>1 政治と法の機能</p> <p>2 人権保障と法の支配</p> <p>3 議会制民主主義と政治の特質</p>	<p>・民主政治の基本的な原理について、その成り立ちを歴史的な観点からとらえさせる。</p> <p>・世界の主な政治体制であるイギリス、アメリカ合衆国、中国などを比較しながら、理解させる。</p>	○	○	○	○	第1学期中間考查	<p>・「世界史A」「世界史B」などの出てくる市民革命などの内容を踏まえておく。</p> <p>・イギリス、アメリカ合衆国、中国など各国の元首や首相、政治機構を調べさせて発表させたり、レポートとしてまとめさせる。</p>

第1学期	4 日本国憲法の基本原理	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の制定過程や三大原理である国民主権、基本的人権の保障、平和主義について歴史的な経緯を踏まえながらとらえさせる。 ・また、具体的な事例に即しながら、その特徴と問題点について理解させる。 	○	○	○	○	第1学期期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ・大日本帝国憲法との比較などを忘れないようにする。 ・新聞記事を利用して憲法や人権に関する内容を収集したり、発表させたり、レポートとしてまとめさせる。
	5 基本的人権の保障と新しい人権							
	6 国会の組織と機能	<ul style="list-style-type: none"> ・国会、内閣、裁判所の三権のはたらきについて、具体例を示しながら展開していく。 ・地方自治の制度について、近年の市町村合併や住民投票などの動きに注意しながら、具体的な事例に即して理解させる。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法の条文を常に参照させながら政治機構について説明していくようにする。 ・地域の実情や状況について配慮する。 	
	7 内閣の組織と機能							
8 裁判所の機能と人権保障								
9 地方自治制度と住民の権利	<ul style="list-style-type: none"> ・マスメディアの普及によりマスコミの果たす役割や問題点について考えさせる。 ・最近の選挙などの動きに注目させ、選挙制度などについて具体的に展開し、将来の有権者としての行動はどうあるべきかなどを理解させる。 ・戦後日本の各政党の変遷などをとらえさせ、政治活動や政治資金の問題点などを理解させる。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞の世論調査や各種の統計などを利用することで、現状や問題点について理解させるように工夫する。 ・時事的な話題が中心になるが、単なる解説・概説にならないように配慮する 		
10 政党政治と選挙								
11 世論と現代政治の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・国際政治の動向や特徴について、現在、どのような動きがあり、何が争点になっているかなど具体的な動きに注目することで、国際政治への関心を高める。 ・戦後の国際政治の変遷に触れながら、国際法や国際連合の組織としての機能などについて理解させる。 ・日本が国際政治に果たすべき役割などについても考えさせる。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界史B」でも戦後の国際政治の流れがあることに注意する。 ・特別活動である文化祭行事など学校行事を通して、それらがユニセフ募金やボランティア活動とが国際協力にどのように結びつくかなどに関連付けてみる。 		
第2章 現代の国際政治と日本								
1 国際政治の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・国際政治の動向や特徴について、現在、どのような動きがあり、何が争点になっているかなど具体的な動きに注目することで、国際政治への関心を高める。 ・戦後の国際政治の変遷に触れながら、国際法や国際連合の組織としての機能などについて理解させる。 ・日本が国際政治に果たすべき役割などについても考えさせる。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界史B」でも戦後の国際政治の流れがあることに注意する。 ・特別活動である文化祭行事など学校行事を通して、それらがユニセフ募金やボランティア活動とが国際協力にどのように結びつくかなどに関連付けてみる。 		
2 国際関係と国際法								
3 国際連合の役割と国際協力								
4 安全保障と日本の防衛								
5 国際政治の特質と国際紛争・難民問題								
6 国際平和と日本の役割								
<p>【課題・提出物等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートについては、各節の終了後、課題文として調査した結果を提出させるのもよい。 ・課題としては、1節分の学習が終了した時点でワークノート等を活用して学習内容を整理させる。 ・日頃の学習の定着度をはかるためやセンター試験対策として問題集を利用して応用問題などにも取り組ませる。 ・いくつかのテーマを設定し、それらの中から選択させて個人またはグループなどで調べたように課題を果たす。 								
<p>【第1学期の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価については、考査のみで評価するのではなく、総合的・観点別の評価などを導入する。例えば、考査評価を70%とし、レポート10%、課題・提出物の仕上がり状況を20%とする割合で評価していく（評価の観点のポイントが4つある点を考慮する）。 								

第2学期	9	<p>第2編 現代の経済</p> <p>第1章 経済社会の変容と経済のしくみ</p> <p>1 資本主義体制の発展と社会主義経済の変容</p> <p>2 経済主体と経済活動</p> <p>3 市場経済の機能と限界</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の資本主義経済がどのような歴史的経緯を経て成立しているのかを理解させるとともに、資本主義経済の特徴についてもとらえさせる。 ・資本主義経済と比較しながら社会主義経済とはどのような経済体制であるかを理解させるとともに、今日の代表的な中国経済にも関心を向ける。 ・現代の資本主義経済体制に求められているものは何かをとらえさせる。 	○	○	○	○	第2学期中間考査	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な背景も必要であることから「世界史A」「世界史B」の内容についても配慮していく。 ・現代資本主義経済の特質としての事項についてインターネットなどのメディアを通して具体例などをレポートとしてまとめさせる。
	10	<p>4 経済成長と景気変動</p> <p>5 財政のしくみとはたらき</p> <p>6 資金の循環と金融機関のはたらき</p> <p>7 物価の動き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経済主体間の結びつきなどに注意し、企業活動はどのようなものであるかを理解させる。 ・財政の基本的な役割とともに、財政改革の必要性はどこにあるのかなどを理解させる。 ・金融の基本的なしくみとともに、現在の金融の自由化などについて理解させる。 ・経済活動としての指標とは何かを理解させるとともに、現在の経済状況を踏まえ、経済の見方について考えさせる 	○	○	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・経済学習の一番の中心であることに注意しながら、「株式ゲーム」などの手法を取り入れて身近なものとしていく工夫をする。 ・地域の実情を踏まえ、自治体の予算の使い方などにも注目させる。
	11	<p>8 日本経済のあゆみ</p> <p>9 中小企業の問題</p> <p>10 日本の農業の現状と課題</p> <p>11 消費者問題</p> <p>12 労働問題と労働関係の改善</p> <p>7 社会保障とその充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後の日本経済の歩みを振り返りながらも、現在、日本が直面している経済の諸課題について基本的な事項を中心に、その実態などを理解させるとともに、問題点などについても考えさせる。 ・すべての項目についての基本的な知識の習得をはかるように努める。 	○	○	○	○	第2学期期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」に学習した内容に関連したものがあつた場合には、それを利用するようにする。 ・保護者やその祖父母などが同年齢の時、どのような社会であつたかなどの聞き書きをさせてレポートとしてまとめさせる。
11	<p>第4章 国民経済と国際経済</p> <p>1 国際経済の仕組みと現状</p> <p>2 為替相場のしくみ</p> <p>3 国際協調と国際経済機関の役割</p> <p>4. 国際経済の諸問題と日本の役割</p> <p>5. 環境保全と資源・エネルギーの問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今日貿易のしくみやその決済など国際経済のしくみについて理解させる。 ・第二次世界大戦後の国際経済の変遷をたどりながら、さまざまな国際経済上の課題について理解させるとともに、問題点などについても考えさせる。 ・グローバル化していく国際経済の中で、日本の役割について理解させる。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞などを利用して日本と諸外国との経済関係、企業の海外進出などマクロ・ミクロなどの視点から理解させるようにする。 ・実物教育の形態を取り入れ、ユーロなどの紙幣を利用して考えさせるようにする。 		
12	<p>課題・提出物【等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期に準ずる。 ・夏休みの課題を提出させる。また、課題レポートを果たしたりする（インターネットなどを利用して資料検索をさせ、報告書にまとめさせる）。あるいは、問題集やワークノートなどを活用し予習や提出させるのもよい。 <p>【第2学期の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期に準ずる（評価の観点4つある点を考慮する）。 ・夏休み中の読書課題や課題レポートについても評価に加える。例えば、考査評価70%、読書課題・課題レポート、その他ワークノート等の完成度30%で評価していく。 								

第3学期	1	<p>第3編 現代社会の諸課題 第1章 現代日本の政治や経済の諸課題</p> <p>1 大きな政府と小さな政府</p> <p>2 少子高齢社会と社会保障</p> <p>3 住民生活と地方自治</p> <p>4 住民生活と地方自治</p> <p>5 情報化の進展と市民生活</p>	<p>・問題の所在を明確にしなが、政治や経済との関連ついでの問題点を指摘し、問題そのものへどのように対処していくかを考えさせ、さらには追究していく中で、公民としての資質と能力を養成していく。</p> <p>・〔例1〕政府の果たすべき役割を前提に、「大きな政府」と「小さな政府」の意味を政治面と経済面の両方よりとらえさせ、望ましい社会を目標とする主権者の選択に関わる問題であることを理解させる。</p> <p>・〔例2〕町工場と日本経済を取り上げた場合、中小企業の問題点ばかりを指摘するのではなく、日本経済に果たしている影響やその役割など具体的な例を用いてとらえさせるようにする。</p>	○	○	○	○	学年末考査	<p>*それぞれいくつかの項目を選択することになっていることに注意するとともに、授業の進行状況、地域や学校の実態などに応じて、取り上げる課題の数や課題の精選を行うようにする。</p> <p>・二つの相反する論点を丁寧に説明するとともに、どちらか一方の立場に偏らないように留意する。</p> <p>・手法としてディベートを導入して、それぞれ二つの意見を主張させることによって論点を明確にし、考えさせるようにするのも方法である。</p>
	2	<p>6 産業構造の変化と中小企業</p> <p>7 農業と食糧問題</p> <p>8 消費者問題と消費者保護</p> <p>9 労使関係と労働市場</p>							
	3	<p>第2章 国際社会の政治や経済の諸課題</p> <p>1 地球環境問題</p> <p>2 核兵器の廃絶と軍縮</p> <p>3 人種・民族問題</p> <p>4 経済摩擦と外交</p> <p>5 南北問題と国際協力</p> <p>6 国際社会における日本の役割</p>	<p>・問題の所在を明確にするとともに、国際社会の政治と経済に関連させながら諸課題についてどう考え、どのように対処していけばいいのか課題を追究していく中で、地球市民としての資質と能力を育成していく。</p> <p>〔例1〕冷戦終結後、多発する地域紛争の現状や原因を踏まえ、人種・民族の独立と共生の関係について現実の問題を材料に考えさせる。同時に、日本の果たす役割についても考えさせる。</p> <p>〔例2〕核問題についても、未だに消失しない核兵器の問題、しかも核開発が生じている現実の問題についてとらえさせるとともに、実際の問題点がどこにあるのかを理解させる。</p>	○	○	○	○		<p>*それぞれいくつかの項目を選択することになっていることに注意するとともに、授業の進行状況、地域や学校の実態などに応じて、取り上げる課題の数や課題の精選を行うようにする。</p> <p>・二つの相反する論点を丁寧に説明するとともに、どちらか一方の立場に偏らないように留意する。</p> <p>・手法としてディベートを導入して、それぞれ二つの意見を主張させることによって論点を明確にし、考えさせるようにするのも方法である。</p> <p>・レポート課題などにしてもよい。</p>
<p>【課題・提出物等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1・2学期に準ずる。 ・冬休みの読書課題を提出させる。また、課題レポートを果たしたりする。 ・一年間の総まとめとして、さらに学習の完成度を見るためにも「3ステップス政治・経済研究ノート」の総合問題を解かせていく。 									
<p>【第3学期の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1・2学期に準ずる（評価の観点のポイントが4つある点を考慮する）。 ・読書課題、課題レポートなども評価の参考とする。 									

評価規準

学習内容 (教科書の構成)	評価の観点			
	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
第1章 現代の政治 第1節 民主政治の基本原則 1 民主政治の本質 2 法の支配と人権の確立 3 民主政治のしくみ 4 世界の主な政治体制	・民主主義の理念に対する関心を高め、民主政治の歴史やしくみ、世界の主な政治体制について意欲的に追究しようとしている。	・民主主義の重要性とその実現に向けて課題を見出し、民主政治の本質や特質について多面的・多角的に考察し、公正な判断をしている。	・民主政治に関する資料を様々なメディアを通して収集し、自らが調べたことを適切に表現している。	・民主政治の基本理念や特質を理解し、民主政治に関する知識を身に付けている。
第2節 日本国憲法の基本原則 1 日本国憲法の制定と基本原則 2 基本的人権の保障 3 平和主義	・日本国憲法の持つ意味とその特色について関心を高めているとともに、日本国憲法の内容とはたらきについて、意欲的に追究しようとしている。	・現代日本の政治動向と日本国憲法との関係について課題を見出し、憲法をめぐる諸問題を多面的・多角的に考察し、様々な考え方を踏まえ、公正な判断をしている。	・自らが調べたことを適切に表現しており、様々な立場からの意見や情報を収集し、それらを主体的に選択して活用している。	・日本国憲法の特徴を理解するとともに、それぞれの項目の内容だけでなく、社会的価値などについて知識を身に付けている。
第3節 日本の政治機構 1 国会 2 内閣 3 裁判所 4 地方自治	・日本の政治のしくみや身近な政治についての関心を高め、具体的な問題についても意欲的に追究している。	・日本の政治のしくみや地方自治の制度についての課題を見出し、国民主権の立場から三権の望ましい政治の在り方や地方自治の抱える諸課題を多面的・多角的に考察している。	・現代日本の政治動向や自治体の身近な政治に対する諸資料を収集し、それらの資料に基づいて客観的に表現しようとしている。	・三権のしくみや地方自治制度を理解し、その知識を身に付けている。
第4節 現代政治の特質と課題 1 世論とマスコミ 2 選挙と政治意識 3 政党政治と政治参加	・国民主権の立場から選挙制度や政党政治などに着目し、望ましい政治の在り方や国民の政治への参加の在り方をめぐって客観的に考えようとしている。	・各種の世論調査やメディアからの報道について多面的・多角的に考察し、国民として様々な価値観や利害を踏まえ、公正な判断をしている。	・世論調査や各種統計について資料を収集し、収集した資料についてどのような政治の在り方がよいか適切に説明することができる。	・メディアによる情報の在り方、選挙制度や政党政治のしくみを理解し、その知識を身に付けている。
第5節 現代の国際政治 1 国際政治の動向 2 国際関係と国際法 3 国際社会の組織化 4 国際政治の課題 5 地球環境問題と国際社会 6 国際社会における日本の役割	・現代の国際政治に対する関心を高め、国際政治の特質や国際紛争などの諸要因を意欲的に追究するとともに、日本の国としてまた個人として国際政治に関わるかなど意欲的に考えようとしている。	・国際政治の動向から解決すべき課題を見出し、国際政治の特質や国際紛争の諸要因について多面的・多角的に考察するとともに、国際政治への関与の在り方について様々な立場を踏まえ、公正な判断をしている。	・国際政治の課題や国際連合との関係について、日本の役割や個人の役割について意欲的に追究するとともに、学習に役立つ情報を主体的に選択・活用し、さらにはその結果を適切に表現している。	・国際政治の特質や動向、国際連合の役割などについて理解し、その知識を身に付けるとともに、日本国憲法の立場からも国際政治への貢献について理解を深め、知識を身に付けている。
第2章 現代の経済 第1節 経済社会の変容 1 資本主義体制の成立と発展 2 社会主義経済の登場と変容 3 現代の資本主義経済	・現代資本主義経済の特徴について、その発達に移り変わりに関心を高め、経済活動などの在り方について意欲的に追究し、客観的に考えようとしている。	・現代資本主義経済の特徴について経済社会の変化を踏まえ、現代が直面している課題を見出し、資本主義経済と社会主義経済とを比較しながら、多面的・多角的に考察している。	・現代資本主義経済の特徴に繋がる資料収集を様々なメディアを通して収集するとともに、学習に役立つ情報を主体的に選択・活用し、さらに自らが調べたことを適切に表現している。	・資本主義経済の歴史の変遷や現代資本主義の特徴について理解し、その知識を身に付けている。
第2節 現代経済のしくみ 1 経済主体と経済の循環 2 市場経済の機能と限界	・経済のしくみについて日本経済の動向を踏まえながら関心を高め、経済活動における効率性と国民福祉に求められる公正さとの関連につ	・現代の日本経済の動向について課題を見出し、「株式」などの具体的な動きに即して多面的・多角的に考察し、経済活動や国民福祉との関連に	・現代の日本経済の動向に関する情報収集を様々なメディアを通して行い、学習ゲームなどに積極的に参加し、体験したものを踏まえ、現実	・現代経済のしくみについてとらえるとともに、経済の効率性や公正さの内容について理解を深め、その知識を身に付けている。

3 国民所得と経済成長 4 資金の循環と金融 5 租税と財政	いて客観的に考えようとしている。	ついで経済生活の変化などを踏まえ、公正な判断を行っている。	の経済の動向を考慮に入れて、それらを適切に表現している。	
第3節 日本経済の発展と福祉の向上 1 日本経済の発展 2 中小企業の問題 3 農業・食料問題 4 公害防止と環境保全 5 消費者問題と消費者保護 6 労使関係と労働市場 7 社会保障と社会福祉	・戦後の日本経済の歴史的な移り変わりについて関心を高めているとともに、経済の諸分野における課題を自らの生き方と結びつけながら、意欲的に追究している。	・現代の日本経済についての諸分野における課題を見出しているとともに、それらの課題に対してその本質や解決の在り方について広い視野に立って意欲的に考察しようとしている。	・様々なメディアを通して情報を収集したり、インタビューなどの手法を使い多面的・多角的に情報を収集し、それら収集した情報を主体的に選択・活用するとともに、調べた内容を適切に表現している。	・戦後の日本経済の移り変わりを踏まえて、経済の諸問題について理解し、その知識を身に付けている。
第4節 国民経済と国際経済 1 貿易と国際収支 2 経済対立と国際協調 3 国際経済における日本の役割	・国際経済への関心を高め、国際経済の特質について意欲的に追究するとともに、国際経済に対する日本の役割について客観的な考察を果たしている。	・国際経済に対する理論や実際の動向から課題を見出し、国際的な相互依存関係の深化などの国際経済の特質について多面的・多角的に考察している。	・現代の国際経済の課題に関する情報を収集し、日本の果たすべき役割などについて考察した過程や結果などを様々な形態で表現・説明しようとしている。	・国際経済の動向や課題、日本が果たすべき役割と課題などについて理解し、その知識を身に付けている。
第3章 現代社会の諸課題 第1節 日本社会の諸課題 1 情報化は市民生活をどう変えるか？ 2 政府は何のためにあるのか？ 3 住民参加をどう実現させるか？ 4 町工場は日本経済の活力になるか？ 5 日本の農業は生き残れるか？ 6 循環型社会は実現するか？ 7 自己責任の社会がやってくるか？ 8 雇用の流動化は何をもたらすか？ 9 少子・高齢化は社会をどう変えるのか？ 10 資源・エネルギー問題は解決できるのか？	・現代日本社会が直面する諸課題について関心が高まっている。 ・選択した課題について意欲的に考察・追究しようとしている。 ・今までに学習した「第1章 現代の政治」「第2章 現代の経済」の成果を踏まえ、様々な立場や意見を考慮に入れ、客観的に考えようとしている。	・現代日本社会が直面する諸課題について様々な立場や意見を考慮しながら、多面的・多角的に考察している。 ・選択した課題に対して既習の政治・経済の考え方を利用するとともに、望ましい社会の在り方について公正な判断をしている。 ・ディベートにおいては相互の主張を踏まえた上で、公正な判断をしている。	・選択した諸課題についての資料の収集を様々なメディアを通して行っている。 ・選択した諸課題に対する判断材料として様々な情報を主体的に選択して活用している。 ・自ら調査し、追究した課題について考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	・選択した諸課題についての基本的な内容やお互いの二つの論点の相違を理解するとともに、その知識を身に付けている。
第2節 国際社会の諸課題 1 この星を私たちは救えるのか？ 2 人種・民族問題をどうこえるか？ 3 日本は「ODA大国」か？ 4 貿易黒字は「もうけ」なのか？ 5 核廃絶と軍縮は可能か？ 6 地球社会で日本がなすべきことは何か？	・現代の国際社会が直面する諸課題について関心が高まっている。 ・選択した課題について意欲的に考察・追究しようとしている。 ・今までに学習した「第1章 現代の政治」「第2章 現代の経済」の成果を踏まえ、様々な立場や意見を考慮に入れ、客観的に考えようとしている。	・現代の国際社会が直面する諸課題について様々な立場や意見を考慮しながら、多面的・多角的に考察している。 ・選択した課題に対して既習の政治・経済の考え方を利用するとともに、望ましい社会の在り方について公正な判断をしている。 ・ディベートにおいては相互の主張を踏まえた上で、公正な判断をしている。	・選択した諸課題についての資料の収集を様々なメディアを通して行っている。 ・選択した諸課題に対する判断材料として様々な情報を主体的に選択して活用している。 ・自ら調査し、追究した課題について考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	・選択した諸課題についての基本的な内容やお互いの二つの論点の相違を理解するとともに、その知識を身に付けている。

